

日本人韓国語学習者のための 日韓対照言語研究

李 澤 熊

1. はじめに

韓国は1988年のソウルオリンピックをきっかけに、翌年から海外旅行が自由化され、地理的・歴史的に深い関係にあった日本との間に交流が増えるようになった。そして2002年の日韓ワールドカップ開催といわゆる「韓流ブーム」により、両国の交流はさらに活発になり、その関係もより一層緊密化してきた。

このような状況の中で、当然のことながら問題になってくるのが言葉の問題である。周知の通り、日本語と韓国語は文構造が非常によく似ている。そのため、韓国語は日本人にとって学びやすい言葉であると言われている。

- (1) a. 昨日 私は 栄で 友達と 映画を 見た。
b. 어제 나는 사카에에서 친구와 영화를 봤다.

「昨日→어제」「私→나」「は→는」「栄→사카에」「で→에서」「友達→친구」というように、それぞれの単語や助詞を韓国語に置き換えていけば、正しい韓国語の文となる。

このように、語順をはじめとする文法が非常に似ていることは事実であるが、だからといってすべてにおいて同じなわけではない。例えば、日本語では「太郎に似た顔」「花子に会う」というように、動詞「似る」と「会う」は、助詞「に」と共起して用いられることがあるが、韓国語では日本語の助詞「に」にあたる助詞とは共起することができず、日本語の「を」にあたる「을/를」と共起する。

また、いわゆる「授受表現」においても違いが見られる。

- (2) *ご搭乗予定のお客様は、サービスカウンターでサービスをもらっ
てください。(韓国人日本語学習者の発話)
- (3) *친구에게 한국어를 가르쳐 받았어요. (日本人韓国語学習者の発話)
(友達に韓国語を教えてもらいました)

上記の例は、日本語と韓国語の授受表現の体系の違いから生じたと思われる誤用表現である。「もらう」と「受ける」両方とも、韓国語では「받다」に対応する(例(2))。また、例(3)のように、韓国語では「人＋動詞連用形＋てもらう」に対応する形式はほとんど使われず、「人が＋動詞連用形＋てくれる」という形式をとる。

さらに、受身表現においては、例えば「可愛がっていた猫に死なれてとても寂しかった」「隣の人にタバコをすわれて、気分が悪くなった」というように、日本語では被害(迷惑)の受身といわれる形式があるが、韓国語ではそのような形式を持たない。

両言語が多く の面において類似していることは確かであるが、以上に見たように、助詞の使い分けなど、微妙に異なるところもあるため、注意しなければならない。

さて、日本人が韓国語を学習する際に、様々な難題にぶつかる。文字

や発音の学習などいろいろ考えられるが、何よりも文法・意味（語彙）を理解することが重要な課題であると考えられる。近年、日韓両言語を対象とした研究が盛んになり、優れた研究が数多く報告されるようになった。しかし、今の研究が必ずしも十分とは言えない。特に文法・意味分析を扱った文献の中で韓国語教育現場で有効に活用できるようなものはいまだ少ないと言えよう。

以上の状況を踏まえて、本稿では主に文法と意味の側面に焦点をあわせて、対照言語学研究的観点から分析を進めていき、実際の教育現場で有効に活用できるような土台作りを目指す。

2. 文 法

2.1. 助詞

2.1.1. 「は」「が」と「은/는」「이/가」⁽¹⁾

「は」と「が」の使い分けは、日本語を学ぶ人にとって非常に難しい文法項目の一つとされている。しかし、幸いなことに韓国語にはこれにほぼ対応する助詞が存在しており、韓国人日本語学習者にとっては、それほど問題にならない。それは、日本人が韓国語を学ぶ際にも同様なことが言える。しかし、以下に見るように違いも見られるため、注意する必要がある。

- (4) a. 愛知学院大学はどこですか。
 b. 아이치학원대학이 어디입니까?
- (5) a. これは何ですか。
 b. 이것이 무엇입니까?
- (6) a. お名前は何ですか。

b. 이름이 무엇입니까?

まず、日本語は述部に疑問詞を含む「疑問詞疑問文」の場合、主部に必ず「は」が用いられる。⁽²⁾それに対して、韓国語は日本語の「が」に相当する「이/가」が使われることがある。日本語では主部がいわゆる「既知」「旧情報」として見なされ、「は」が使われるが、韓国語の場合は、先行文脈のない（想定しにくい）疑問文では普通「이/가」が使われる。つまり、問題となる部分が当該の談話の中で「初めて表れたかどうか」という基準が優先的に選択される。例えば、例(4)は「突然見知らぬ人に道を尋ねられる」といった状況が考えられる。

(7) (大学の場所が話題になっている場面)

a. A : 名古屋大学は千種区にあります。

B : そうですか。では、愛知学院大学はどこですか。

b. A : 나고야대학은 치쿠사구에 있습니다.

B : 그렇습니까? 그러면, 아이치학원대학은 어디입니까?

上記の例における疑問詞疑問文では、韓国語も「은/는」が用いられる。文の状況から分かるように、「아이치학원대학」は既出項目としてとらえられているためであると考えられる。

続いて、以下の例を見てみよう。

(8) a. 彼は大学生ではありません。

b. 그는 대학생이 아닙니다.

(9) a. 彼は先生ですが、でも、語学の先生ではありません。

b. 그는 선생님이지만, 어학 선생님은 아닙니다.

日本語では、例 (8)a のように「～ではない」という形式で名詞 (句) の否定文を作ることができる。一方、韓国語では例 (8)b のように「～이/가 아니다」という形式が対応する。ただし、例 (9) のように、対比など何らかの意味で当該の名詞 (句) を強調する場合には「～은/는 아니다」という形式がとれる。

さらに、次の例を見てみよう。

(10) (テレビで、ニュースキャスターが現地のリポーターと中継をつなぐ場面)

a. A : それでは、現地と中継がつながったようです。現地で取材にあたっている鈴木リポーターお伝えください。

B : はい、私は、今、名古屋は栄に来ております。

b. A : 그러면, 현장과 중계가 연결된 것 같습니다. 현장에서 취재를 하고 있는 스키리포터, 전해주시죠.

B : 네, 저는 지금, 나고야(의) 사카에에 와 있습니다.⁽³⁾

例 (10)a における「名古屋は栄に」は、元々「名古屋の栄に」であると考えられるが、いわゆる「所在」の意を表す「の」が主題化したものであるととらえられる。しかし、韓国語では例 (10)b のように「은/는」で表すことができない。

2.1.2. 「을/를」について⁽⁴⁾

韓国語の助詞「을/를」は、日本語では「を」に対応するのが一般的であるが、以下に示すように、その対応関係にずれがある場合がある。

(11) a. 야마다 씨를 좋아하다(싫어하다).

b. 山田さんが好きだ (嫌いだ)。

(12) a. 야마다 씨를 맑은 얼굴.

- b. 山田さんに似た顔。
- (13) a. 버스를 타다.
b. 버스に乗る。
- (14) a. 야마다 씨를 만나다.
b. 山田さんに会う。
- (15) a. 중국어를 할 수 있다.
b. 中国語ができる。
- (16) a. 겨울 방학에 여행을 갑니다.
b. 冬休みに旅行に行きます。

まず、例 (11)～(15) のように、「好きだ (嫌いだ)」「似る」「乗る」「会う」「可能表現」は韓国語では「을/를」を用いることがあるが、日本語では他の助詞が使われる。また、例 (16) のように、「行く」対象が「目的」を表す場合、韓国語では「을/를」を用いることがあるが、日本語ではそのような用法がない。

2.2. 指示詞

周知の通り日本語と韓国語は、それぞれ「코・소・아」「이・그・저」というように、同じ3系列の指示詞を持つ言語である。しかしながら、両者の用法には違いもある。

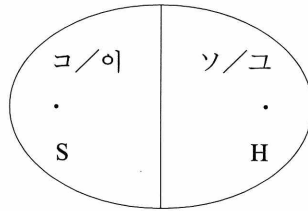
以下では、先行研究を踏まえて、両語の指示詞の体系を示す。

2.2.1. 現場指示

指示対象が話し手と聞き手の両方に見えるような状態で存在する。

2.2.1.1. 対立型

話し手が聞き手を心理的に疎遠な存在としてとらえる。話し手と聞き手によって二分される分極的な構造をなす。



〈図1〉 S : 話し手 H : 聞き手

(17) (授業中、教師が生徒たちにリンゴの絵を見せながら)

a. 教師：これは何ですか。

生徒：それはリンゴです。

b. 교사：이것이 무엇입니까?

학생：그것은 사과입니다.

(18) (美容院で)

a. 美容師：どれくらい切りましょうか。

客：短くしてください。

美容師：これくらいですか。

客：ええ、それくらいにしてください。

b. 미용사：어느 정도 자를까요?

손님：짧게 해 주세요.

미용사：이 정도로 할까요?

손님：네, 그 정도로 해 주세요.

上記の例のように、対立型においては、基本的に同じ系列の指示詞が用いられる。ただし、違いが見られるケースもある。

(19) (Bが、Aの知らない人と話している場面)

a. A：その方は……。

B : この方は大学時代の恩師なの。

b. A : 이 분은(누구시니?)

B : 이 분은 대학교 은사님이야.

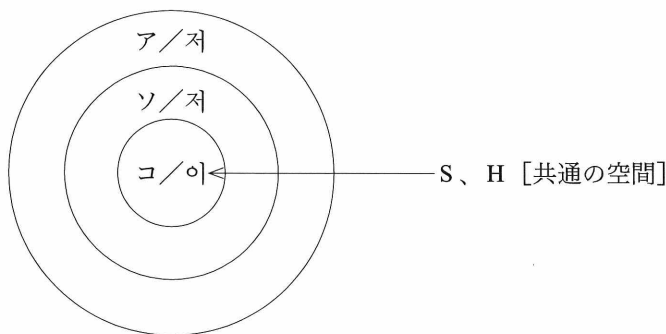
日本語では指示対象（Bの恩師）が聞き手であるBの個人空間の中に存在すると認識されるため、例(19)aのように、Aの発話にはソ系列が用いられている。しかし、韓国語では이系列が用いられている。このように、韓国語では「人間を指す場合」は이系列が用いられることが分かる。⁽⁶⁾以上をまとめると〈表1〉のようになる。

〈表1〉

日本語		韓国語
コ系列	指示対象が話し手の個人空間の中に存在すると認識する場合に用いられる。	이系列
ソ系列	指示対象が聞き手の個人空間の中に存在すると認識する場合に用いられる。	그系列 (人間：이系列)

2.2.1.2. 融合型

話し手が心理的に聞き手を自分の身近な存在としてとらえる。話し手と聞き手のなわばりが重なり合った「われわれ」意識の成り立つ場である。



〈図2〉 S : 話し手 H : 聞き手

(20) (Bのアパートで)

a. A : いい部屋だね. この部屋で一人で住んでいるの?

B : うん. すぐ近くに食堂や本屋などもあって、この周辺はとても便利だよ.

b. A : 방 좋네. 이 방에서 혼자 살고 있어?

B : 응, 근처에 식당, 책방 등도 있어서, 이 주변은 정말로 편리해.

(21) a. A : そこ／あそこの喫茶店でコーヒーでも飲んでいかない?

B : そうしよう.

b. A : *그／저 차집에서 커피라도 마시고 가지 않을래?

B : 그렇게 하자.

融合型においては、日韓両言語で違いが見られる。日本語の場合は「コ系列→ソ系列→ア系列」という階層をなしているが、韓国語の場合は話し手と聞き手の「共通の空間外」と認識されればすべて「저系列」が用いられる。

〈表2〉

日本語		韓国語
コ系列	指示対象が話し手と聞き手の共通の空間に存在すると認識する場合に用いられる。	이系列
ソ系列	指示対象が話し手と聞き手の共通の空間外に存在すると認識する場合に用いられる。	저系列
ア系列	指示対象が話し手と聞き手の共通の空間外に存在すると認識する場合に用いられる。ただし、ソ系列よりも遠い ⁽⁷⁾ 場所にある指示対象を示す。	저系列

2.2.2. 文脈指示

指示対象が発話の現場ではなく文中に存在する。聞き手の存在が問題になる場合と問題にならない場合のいずれも用いられる。

(22) a. A : 東京に親友がいるんだけどね。こいつお酒が強くて、いくら飲んでも酔わないの。

B : すごいね。

b. A : 동경에 친한 친구가 있는데. 이 녀석 술이 세서, 아무리 마셔도 취하질 않아.

B : 대단하네.

(23) a. A : 地球の環境問題が深刻化しているね。

B : これは本当に大きな問題だよ。

b. A : 지구의 환경문제가 심각화 해지고 있네.

B : 이것은 아주 큰 문제야.

例 (22) のように、前もって示した指示対象のうち、話し手（書き手）が特に取りあげたいもの、聞き手（読み手）に注意を引きたい場合コ系列が用いられる。また、例 (23) のように、相手の意見に積極的に共感する場合にもコ系列が用いられる。この場合は韓国語も同様である。

(24) a. A : 地球の環境問題が深刻化しているね。

B : それは本当に大きな問題だよ。

b. A : 지구의 환경문제가 심각화 해지고 있네.

B : 그것은 아주 큰 문제야.

(25) a. A : 高校の時の友達に鈴木一郎という人がいるんだけど、昨日駅でその人にばったり会ったの。

B : その人には久しぶりに会ったの？

b. A : 고등학교 때 친구 중에 스즈키 이치로라는 사람이 있는데, 어제 역에서 그 사람을 우연히 만났어.

B : 그 사람하고는 오랜만에 만난거야?

一方、ソ系列は、例 (24) のように指示対象を中立的に示す場合と、例 (25) のように話し手と聞き手の双方、あるいは、一方が知らない指示対象を示す場合に用いられる。この場合も、韓国語は同じように使われる。

(26) a. A : おいしい寿司、食べたいね。

B : この前、仕事の帰りにみんなで行ったところはどう？

A : ああ、あの店、いいね。

b. A : 맛있는 생선초밥, 먹고싶다.

B : 요전에, 일 마치고 다같이 간 곳은 어때?

A : 아, 그 가게, 좋아.

ア系列については、日韓両言語で違いが見られる。つまり、日本語は話し手と聞き手の双方がよく知っている指示対象を示す場合はア系列が用いられるが、韓国語ではソ系列が用いられる。以上の結果をまとめると次のようになる。

〈表 3〉

日本語		韓国語
コ系列	指示対象について話し手と関連が深く当事者であると認識する場合、あるいは相手の意見に積極的に共感する場合に用いられる。	이系列
ソ系列	・ 指示対象を中立的に示す場合に用いられる。 ・ 話し手と聞き手の双方、あるいは、一方が知らない指示対象を示す場合に用いられる。	그系列
ア系列	話し手と聞き手の双方がよく知っている指示対象を示す場合に用いられる。	그系列

2.3. 敬語

日本語は敬語が非常に複雑で、高度に発達した言語として知られており、一般的に尊敬語・謙讓語・丁寧語の3つに分類する。⁽⁸⁾ 韓国語にも日本語と同様に尊敬語・謙讓語・丁寧語の3種類が用言の文法範疇として存在するが、その使われ方には大きな違いがある。

(27) (上司に向かっての発話)

- a. 어제 제 아버지께서 구두를 사 주셨습니다.
- b. *昨日私のお父さんが靴を買ってくださいました。(逐語訳)
- c. 昨日父が靴を買ってくれました。

(28) (先生に向かっての発話)

- a. 어제 제 어머니께서 학교에 오셨습니다.
- b. *昨日私のお母さんが学校にいらっしゃいました。(逐語訳)
- c. 昨日母が学校に参りました。

(29) a. 社員：社長、コーヒーを召し上がりますか。

社長：ええ、ありがとう。

- b. 사원：사장님, 커피 드시겠습니까?

사장：응, 고맙네.

(30) (取引先の社員に向かっての発話)

- a. 社長は今席を外しております。
- b. *사장은 지금 자리를 비우고 있습니다. (逐語訳)
- c. 사장님은 지금 자리를 비우고 계십니다.

上記の例(27)(28)から分かるように、韓国語の敬語は「絶対敬語」の要素が強いと言われている。絶対敬語とは「特定の人物に対する待遇が、場面や文脈に関わりなく同じ言語形式で表わされる敬語」のことを言う。つまり、韓国語では日本語のようにウチとソトで敬語の使い方を変える

ことはなく、自分を基準にして上であれば尊敬語を使うのが一般的である（親や兄姉、上司など身内の動作、状態に言及する場合も同様）。

それに対して、日本語の敬語は「**相対敬語**」の要素が強いとされている。相対敬語とは「ある人物に対する待遇が、相手との関係など場面や文脈によって異なる敬語」のことを言う。例えば(29)のように、相手が自分より上司の場合、相手の発言や行動などを表現するときには尊敬語を使うが、例(30)のように、来客の前では謙讓語を使う。

以上のように、日本人が韓国語を学習する場合（または、その逆の場合）、母語の干渉により誤用が生じるおそれがあるので、十分に気をつける必要がある。

3. 語 彙

日本と韓国は長い歴史の中で中国から大きな影響を受けていた時代があり、受け継いだものも数多く存在する。その中の一つに漢語系語彙があげられる。その結果、現在でも中国語起源の漢語系語彙が数多く使われており、日韓両言語の語彙全体に占めている割合は6～7割に及ぶとも言われている。

- (31) a. 日本語：図書館 教室 歌手 無料
 b. 韓国語：도서관(toseogwan) 교실(kyosil) 가수(kasu) 무료(muryo)

上記のように、意味だけではなく発音までも酷似している。冒頭でも述べたように、韓国語が日本人にとって学びやすい言葉である理由はこういったところにあると言えよう。しかしながら、同じ漢語系語彙であっても、まったく意味が異なったり、ずれがあつたりするケースも多い

ため、注意しなければならない。

以下では、日韓両言語の（漢語系を含む）語彙における意味の違いについて考察する。

3.1. 名詞

まず、漢語系語彙の中で、日本語と韓国語の間でまったく異なる意味で用いられる例を示す。

〈表4〉

日本語	韓国語
勉強	공부 (工夫)
部外者	외인 (外人)
場合	경우 (境遇)
挨拶	인사 (人事)
長所	장점 (長点)
家族のこと、家の中	가내 (家内)
元氣 (丈夫) な男性	대장부 (大丈夫)
一階	일층 (一層)

次は、それぞれ表す意味は同じであるが、語や音節の配列が反対になっている例である。

〈表5〉

日本語	韓国語
婚約	약혼 (約婚)
良妻賢母	현모양처 (賢母良妻)
同上	상동 (上同)
古今東西	동서고금 (東西古今)
あちらこちら	이쪽 저쪽 (こちらあちら)
ああだこうだ	이러쿵 저러쿵 (こうだああだ)
行ったり来たり	오다 가다 (来たり行ったり)
立ったり座ったり	앉았다 섰다 (座ったり立ったり)

最後に、韓国語の漢語系語彙の中では、日本語とそのままの形では対応しないが、使われている漢字から、その意味が推測できる例を示す。このパターンも学習者の注意を要する習得項目である。

〈表6〉

韓国語	日本語
여학생 (女学生)	女子学生
남학생 (男学生)	男子学生
호수 (湖水)	湖
상가 (商街)	商店街
혼담 (婚談)	縁談
수영복 (水泳服)	水着
강 (江)	川
생일 (生日)	誕生日

3.2. 動詞

3.2.1. 「着る」「履く」と「입다」「신다」

装着の意を表す語に「着る」「履く」がある。現代日本語において、体全体あるいは上半身に着用する場合は「着る」が用いられ、足先から通して下半身につける場合は「履く」が用いられる。

それに対して韓国語の場合は、体全体あるいは足の部分を除く下半身まで「입다 (着る)」が用いられる。つまり、「신다 (履く)」は足の部分のみ用いられる。⁽⁹⁾

〈表7〉

日本語		韓国語
着る	体全体：洋服、着物、ドレス	입다
着る	上半身：ワイシャツ、Tシャツ	입다
履く	下半身：ズボン、ジーンズ	입다
履く	足：スニーカー、靴下、靴	신다

3.2.2. 「食べる」「飲む」と「먹다」「마시다」

日本語における「食べる」と「飲む」の大きな違いは、口の中で「嘔む」工程を経るか否かにある。そのため、固形食物には「食べる」、液体状の食物は「飲む」が使われるのが一般的である。

それに対して、韓国語の場合「먹다 (食べる)」は、「固形」「液体」にかかわらず使われる。また、「마시다 (飲む)」は「液体」の他に「気体」についても使われる。

〈表 8〉

日本語		韓国語
食べる	ご飯、肉、野菜、お菓子	먹다
飲む	酒、お茶、水、ビール、ジュース、薬 ⁽¹⁾	먹다/마시다
吸う	空気、ガス	마시다

3.2.3. 「～てしまう」と「～아/어 버리다」「～고 말다」

韓国語では、下の例 (32) のように「～てしまう」に対応する補助動詞が2つ存在する。しかし、例によってはどちらかの一方としか対応しない場合がある。

(32) a. 스이카一玉を一人で全部食べてしまった。

b. 수박 한통을 혼자서 다 먹어 버렸다(고 말았다).

(33) a. バスの中にうっかり財布を落としてしまった。

b. 버스 안에 부주의로 지갑을 떨어뜨리고 말았다(*어 버렸다).

(34) a. 友達が憎くて、コーヒーにわざと睡眠剤を入れてしまった。

b. 친구가 미워서 커피에 고의로 수면제를 넣어 버렸다(*고 말았다).

鈴木 (1998: 50) は日本語の補助動詞「～てしまう」の内在的意味を「話

者の事態に対する感情・評価的な判断・態度を表すもの」として次のように述べている。

b) 話者が事態を望ましくないととらえているか、または実現しにくいととらえていることを前提とする。(前提とするとは、「～てしまう」が否定、疑問、命令、また意志、願望を表す形をとっても、あるいは概言を表す表現や助動詞化した「ものだ」「わけだ」などが付加されても、このb)の意味がそれらの影響を受けないということを表す。)(鈴木(1998: 50))

また、鈴木(1998: 56)は「『もはや元には戻せず残念だ』『予想外のことで驚いた』などの様々な感情・評価的意味は、『話者が事態を望ましくないととらえているか、または実現しにくいととらえている』という内在的意味により、慣用的な推論によって派生される」と述べながら、次のような例をあげている。

(35) 花子が太郎と結婚してしまった。

※(「花子が太郎と結婚する」という事態を望ましくないととらえている場合にそれが実現する)→もはや元には戻せず残念だ。

※(「花子が太郎と結婚する」という事態を実現しにくいととらえている場合にそれが実現する)→予想外のことで驚いた。

上記の例を「～아/어 버리다」と「～고 말다」に当てはめてみると、次のように示すことができる。

(36) a. 하나코가 타로와 결혼하고 말았다.

→(「花子が太郎と結婚する」という事態を望ましくないととらえ

ている場合にそれが実現する) → もはや元には戻せず残念だ。

b. 하나코가 타로와 결혼해 버렸다.

→ (「花子が太郎と結婚する」という事態を実現しにくいととらえている場合にそれが実現する) → 予想外のことで驚いた。

以上のことから、「～아/어 버리다」は「事態を実現しにくいととらえている」場合に用いられると考えられる(慣用的な推論によって、「予想外のことで驚いた」という感情・評価的意味を表すこともある)。

それに対して、「～고 말다」は「事態を望ましくないととらえている」場合に用いられると考えられる(慣用的な推論によって、「もはや元には戻せず残念だ」という感情・評価的意味を表すこともある)。

4. おわりに

母語というのは無意識のうちに身につけた、空気と同じように存在しないのと同様なものだと考えられる。そのため、日常の意識ではそもそも問題にならないし、当たり前ものをわざわざ問題にするということも普通はしないと考えられる。しかし、言語教育の世界ではその当たり前のようなことが度々問題になったりする。普段なかなか気づきにくい母語の様々な現象に気づくということは、この言語教育の分野では非常に大切なことである。そういった現象に気づくためには、母語を客観的な立場から観察する力を身につける必要がある。今回、日本語と韓国語の文法・語彙項目をいくつか取りあげ考察を行ったが、その手助けになれば幸いである。

注

- (1) 前に来る体言の最終音節が母音で終わっている場合は「는」と「가」に、子音で終わっている場合は「은」と「이」に接続する。
- (2) 大門（1993）は文を状態性の観点から「出来事疑問文」と「状態疑問文」に分けているが、「何がどうなりましたか」「誰がどうしましたか」のように、「出来事疑問文」の場合は、「가」が表れる場合があると指摘している。
- (3) この場合、「の」にあたる「의」が用いられないわけではないが、省略されるのが一般的である。
- (4) 前に来る体言の最終音節が母音で終わっている場合は「를」に、子音で終わっている場合は「을」に接続する。
- (5) ただし、「好きだ」「可能表現」に関しては「を」を用いることがある。
- (6) 宋（1991）にも同様の指摘がなされている。なお、人間以外の指示対象（死人や動物、物など）は、日本語と同じくコ系列が用いられる。
- (7) ここで言う「共通の空間外」、「ソ系列よりも遠い場所」というのは客観的・絶対的に決まっているものではなく、話し手と聞き手によって主観的に決められるものである。
- (8) 日本語学においてはさらに丁寧語・美化語の2種類を立てて分類することが一般的である。
- (9) 「帽子をかぶる」「手袋をはめる」のように、頭部や手（腕）に関しては両言語ともに別の語が使われる。
- (10) 「固形食物」について「飲み込む」という形で用いられる場合があるが、このときも「嚙まずに胃の中を送る込む」という意になる。なお、薬に関しては「液体」「固形」にかかわらず「飲む」が用いられるが、それは、通常の場合「固形」の薬も水と一緒に飲み込むからであると考えられる。また、錠剤などの固形の薬は古い時代にはなかったということも理由として考えられる。
- (11) 韓国語では、薬に関しては「먹다（食べる）」を用いるのが一般的である。

参考文献

- 庵功雄（2001）『新しい日本語学入門』、スリーイーネットワーク。
 庵功雄（2003）『「象は鼻が長い」入門』、くろしお出版。
 李熙郷（2007）『～てしまう』と『～아/어 버리다』の構文論的特徴の考察

- 『日語日文学研究』No. 60, 韓国日語日文学会.
- 大門正幸 (1993) 「『総記』の解釈について」『日本語教育』第80号, 日本語教育学会.
- 金水敏・田窪行則編 (1992) 『指示詞』, ひつじ書房.
- 国立国語研究所編 (1978) 『日本語の文法 上』, 大蔵省印刷局.
- 国立国語研究所編 (1981) 『日本語の文法 下』, 大蔵省印刷局.
- 鈴木智美 (1998) 「『～てしまう』の意味」『日本語教育』第97号, 日本語教育学会.
- 宋晩翼 (1991) 「日本語教育のための日韓指示詞の対照研究」『日本語教育』第76号, 日本語教育学会.
- 田中望・正保勇 (1981) 『日本語の指示詞』, 国立国語研究所.
- 野田尚史 (1985) 『セルフ・マスターシリーズ1 はとが』, くろしお出版.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』, くろしお出版.
- 朴序敬 (2001) 「疑問文における『は』と『が』及び『nun』と『ga』」『ことばの科学』第14号, 名古屋大学言語文化部言語文化研究会.
- 村田美穂子 (1997) 『助詞「は」のすべて』, 至文堂.
- 森田良行 (1995) 『日本語の視点』, 創拓社.
- 安田吉実・箕輪吉次・孫洛範・李淑子 (編) (2006) 『韓日辞典』, 民衆書林.